



勝沼富町の甲州ブドウ

甲州市指定天然記念物  
 【勝沼富町のブドウ（甲州種の本種）】（甲州市）  
 山梨県固有のブドウ品種である甲州種は山梨を代表する甲州ワインの原料となる品種です。勝沼富町にある葡萄の樹は樹齢130年を数え、「甲州」と名づけられた名木で、この甲州とそのブドウにまつた葡萄からワインを醸造している会社もあります。



国登録有形文化財（建造物）  
 【佐藤家住宅】（甲州市）  
 甲州切妻型民家、小屋裏で養蚕するために明かり採りの屋根が設けられています。葡萄畑の広がりにより、周囲が葡萄畑に囲まれています。養蚕から葡萄栽培の転換を示す文化財。



【養蚕農家の特徴を持つ和風建築ワイナリー】（甲州市）  
 原成ワイン株式会社。越屋根を持つ建物で、軒先まで葡萄畑が張り巡らされています。



国宝（建造物）  
 【清白寺】（山梨市）  
 かつては周囲を水田や桑畑に囲まれていましたが、葡萄畑に転換したことにより葡萄畑の中に仏殿が浮かぶような風景となっています。

日本遺産  
 山梨県峡東地域  
 葡萄畑が  
 織りなす  
 風景

生活の屋根となり、  
 支えてきました

時代の変化とともに拡大した葡萄畑

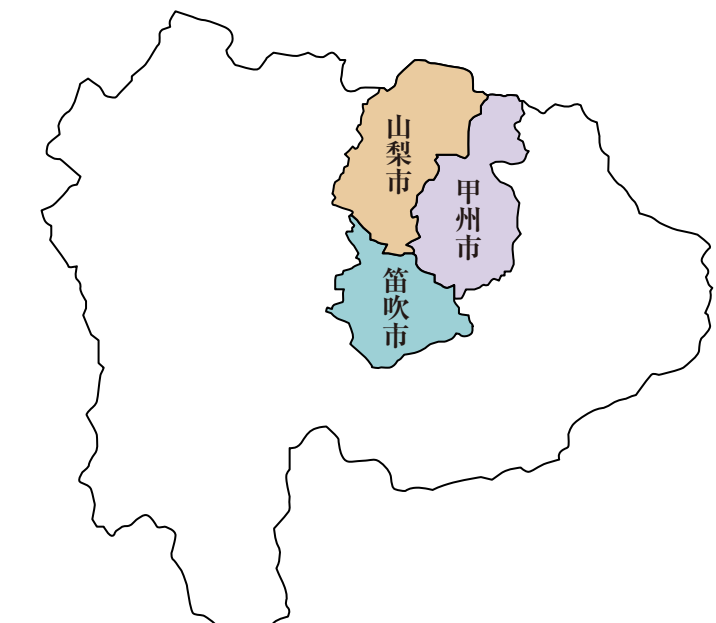
明治期の峡東地域（甲府盆地東部）では、「甲州切妻型」と呼ばれる光を取り入れるために棟の中央を持ち上げた「突上げ屋根」を設けた家屋で、養蚕が盛んに行われていました。

しかし、昭和30年代中頃から化学繊維の普及などにより養蚕業が衰退し始めると、養蚕農家は収益性の高い葡萄などの果樹栽培へと転換し、限られた耕作地で収穫量を増やすために、家屋の軒先まで葡萄畑を張り巡らされました。

こうして葡萄畑は地域の隅々まで拡大していき、農家だけでなく、大善寺や清白寺などの寺社仏閣も葡萄畑の海に浮かぶような、他では観られない風景が形成されていきました。

また、勝沼地区には、収穫した葡萄を一時保存する半地下の貯蔵庫の遺構があります。これにより、出荷量の調整が可能となり、市場への安定供給と価格の安定が図られ、葡萄の生産拡大に繋がりました。この貯蔵庫は、電気冷蔵庫が普及する昭和30年代まで使われました。

昭和33年に国道20号新笹子トンネルが開通したことにより流通環境が飛躍的に改善し、京浜市場と直結されたことから、葡萄栽培は一層盛んになりました。またモーターゼーションの進展とともに、首都圏からの観光客が急増したため、主要な道路沿いには観光葡萄園が増加し、今でも収穫の時期には、葡萄狩りを楽しむ観光客が大いに賑わいます。



山梨県  
 山梨市、笛吹市、甲州市

